

## 特集にあたって

本号では音響のディテールという特集を組んだ。求められる音響性能が実際の建物で実現されるためには、音響設計の内容が具現化されることが必要である。音響設計に特化した図面はないため、意匠、構造、機械・電気設備、またホールにおいては各種舞台設備なども含む設計図書に、その内容が盛り込まれることになる。さらにそれが施工段階では施工図として展開され、実現する。実際の建築として成立させるためには隙間をどのように処理するか、吸音材を狙った位置に設置するにはどんな方法があるかなど、けっこう悩ましいことも多く、一般建築とは異なるディテールへの配慮が、音響性能を問われる建築では必要となる。本特集では音響のためにおさえておきたいディテール、また音響のためにデザインされたホールのディテールを集め、設計者／施工者の参考資料となることを目指した。

前半では、“音響のディテールと留意点”と題し、音響に関する建物の設計／施工を行う際に、知っておきたい基本的なディテールを、遮音、防振遮音構造、吸音仕上げ、建築設備、舞台音響の項目についてとりあげご紹介いただいた。また、それぞれの留意点等についても述べていただいた。

“遮音構造のディテール”では、乾式遮音間仕切りとスラブや柱などの取り合い、またスライディングウォール周辺の納まりなど、頻繁に出会う遮音の留意箇所について、実測データも交えてそのディテールをご紹介いただいた。

“防振遮音構造のディテール”では、防振遮音構造(浮き構造)における、各部の基本的なディテールとともに、防振材の選択方法等についてご紹介いただいた。また近年の耐震に対する意識が高まってきているなかでのディテールについても述べていただいている。

“吸音仕上げの基本的なディテール”では、室内各部の吸音仕上げについての留意点と、グラスウールや穴あき板、リブなどを使った基本的な吸音仕上げについてのディテールをご紹介いただいた。

“建築設備のディテール”では、設備騒音低減、また建築の遮音性能との整合性などを図っていくために使われるダクトの遮音外装、遮音壁への貫通処理方法、機器の防振方法などについてのディテールと留意点をデータとともにご紹介いただいた。

“舞台音響設備の最新設置事例”では、スピーカの設置について注目し、最近のスピーカ選定の動向とともに、建築への納め方やその留意点を参考図面や写真などを用いてご紹介いただいた。

後半は、“ホールのディテール”と題し、北は岩手(釜石)から南は台湾(台中)まで、様々なホールの内装仕上げについてご紹介いただいた。ホールを特徴付ける内装仕上げは、その見栄えもコンサートでの音の感じ方に影響を与えていると考えられるが、もちろん内装仕上げは反射音に作用するため、室内音響効果を作りあげているひとつの重要な要素である。反射音の拡散や特性のコントロールを意図したり、ロングパスエコーなどの音響障害の防止のためであったり、吸音のためであったり、いろいろな役割を内装仕上げは担っている。

ホールの内装には凹凸が多くあったり、いろいろな材料が使われていたりする。写真で見たり、行ってみたいホールの内装が、どのように造られているのか気になることも多い。最近の本誌におけるホールの紹介では音響設計者による執筆が多かったが、本号ではできるだけ内装のディテールをご紹介いただけるように、あえて意匠設計者の皆様にご執筆をお願いした。オープンほやほやのホールもあるし、皆様おなじみのホールもあるなど、オープン時期もまちまちで、書き振りがまた様々となったが、設計者のお考え、各部内装仕上げのディテールなど、大変興味深い内容をご紹介いただいた。

前半、後半をとおし、ご紹介いただいた様々なディテールが、読者の皆様の参考になれば幸いである。

(編集担当：石渡智秋(文責)、中澤真司、渡辺充敏)